

愛媛果研ニュース

No.34 平成28年11月



「愛媛果試第 28 号」(紅まどんな)



「甘平」のスペシャルブランド
(愛媛クィーンズブラッシュ)

愛媛のかんきつ オリジナル品種



ブラジルで開かれたリオオリンピックも終わり、日本選手団は素晴らしい実績を上げられました。特に私が感心したのは、個人種目では決勝に残れなかった100m走ランナー達が、リレーではその力を結集して銀メダルに輝いたことです。アスリートたちは日々のトレーニングや体調管理を徹底して、最高のパフォーマンスが晴れの舞台上で発揮できるように、心をも鍛えられていることに敬意を表したいと思います。

さて、今年も果樹栽培の前半戦が終了しました。この夏は7月18日の梅雨明け以降、約40日間ほとんどといっていいほど降雨がありませんでした。生産者のみなさまには酷暑の中灌水作業に追われ大変であったろうとお察しします。しかし、これからが品質を高めるための本番のステップです。オリンピックアスリートほどの精神力、体力の維持は難しいですが、みなさま方も日々の管理を徹底していただき、実り多い1年としていただきたいと思います。果樹研究センターにおきましても、みなさまのパフォーマンスとその成果である収穫を実り多いものにするために各種の技術開発に努めております。今回は、①オリジナル品種「愛媛果試第 28 号」の摘果の省力化について、②最近大きな問題となっている「浮皮」に対する植物調節剤の利用の試みについて、③キウイフルーツ栽培の大きなネックとなっている新型かいよう病菌の検出技術開発についての最新ニュースを取りまとめました。栽培管理に即利用できる情報だけではありませんが、すべてが重要な要素を含んでおりますので、一度目を通していただければ幸いです。

来年は愛媛県で第72回国民体育大会が開催されます。また冒頭に書きましたオリンピックは2020年には東京で開かれます。来年、また4年後の愛媛の果樹産業がどうなっているのかは生産者のみなさまのご努力がどう実るかということです。日々の管理を怠らず、その努力が最高の成果、産業の発展に繋がることを祈って止みません。